

事例1 NPO法人 AMDA・アムダ

岡山県新庄村から目指す、有機農業のグローバル化

岡山県新庄村にはAMDA専任のスタッフ2名が住み、稲作や野菜作りに取り組んでいる。「AMDAフードプログラム」の一環だ。

緊急医療支援のNGOがなぜ？

その答えは「食は命の源」というコンセプトにある。国内外の活動経験から、「安全、安心な食」が健康な体づくりに不可欠であることに着目し、アジアに有機農業を啓蒙・普及することを目的に、新庄村に有機農業推進モデル農場を設置したのだ。

自然豊かな新庄村が「命と食」の取り組みをグローバルに推進していくのにふさわしいフィールドだと、AMDAの菅波代表が選定し、村に提案したことから始まった。村では議会の承認により2011年に「アジ

ア有機農業プラットフォーム推進条例」が制定された。

2013年にはインドネシアからの研修生を受け入れ、収穫までの半年間、村ぐるみで研修を行った。以降もインドネシアを訪れフォローアップ支援を行っている。また、昨年はフィリピンやラオスからの研修生も来日した。

村民からの理解を得ていくのが課題だったと、村会議員でありアジア有機農業連携活動推進協議会会長の稲田泰男さんは言う。「与えるばかりで村のメリットがないといっていた方もいた。でも研修生に農業を教えたり、祭りなどで顔を合わせるうちに、伝えたい、交流したいという気持ちになつていったようです」。



ラオスからの研修生が田植え作業を前に、地元小学生に自己紹介

村としては数十年後を見据えた地域活性化策であるが、すでに若い世代の関係者が複数定住するなど、成果は出てきている。「日本だけで考えなくても、地球単位で村民を呼んで来ればいいと思っている。農業者には世界共通のマインドがあります」。

※インドネシアおよびフィリピンからの研修生受け入れは、(財)自治体国際化協会による「自治体国際協力促進事業(モデル事業)」の助成を受け実施